

Vol.81
2020年
初冬号

明日をつむぐ



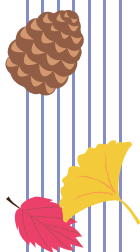
特集

事業所紹介⑦

わーくす昭和橋

詳細記事はP4～5

- 利用者、家族へのアンケート報告 P2
- 30周年企画③ うろじの家開設のころ P3
- ミラクルファーム通信⑦ P6



来年度からの5カ年にむけて

アンケート結果の報告

来年度からの5カ年計画づくりに向けて9月に利用者、家族、職員へ現状の評価とこれからの要望についてアンケートを実施しました。まだ、すべての集計は完了していませんが利用者と家族のアンケート結果から、その特徴や寄せられた要望などの一部を紹介します。

利用者アンケートから

① 作業所でこれからやってみたい仕事

多かった順では、食べ物をあつかう仕事、配達の仕事、接客の仕事、縫製の仕事、野菜を育てる仕事、下請けの仕事でした。

② 作業所でやってみたいこと

(自由記述)

- ・スポーツ（キャッチボールなど）、音楽（カラオケなど）
- ・創作的活動（絵画、粘土、料理、プラモデルなど）
- ・日帰り旅行、泊まりの旅行
- ・他の作業所やグループホームの見学会など

③ 現在の生活で不安や心配なこと

- ・コロナが心配（握手やハグができない、好きな野球を観に行けない）
- ・ひとりぐらしを希望しているが地震や火事の時にどうしていいかわからない
- ・お母さんのことが心配、自分の健康のことが心配など

④ グループホームでくらす人からの

要望

- ・お楽しみ企画が楽しいのでたくさんやりたい
- ・テレビでユーチューブを観たい、休みの日はたくさん音楽を聴いていたい
- ・職員（世話人）の人数をもっと増やしてほしい
- ・夕方や休日に出かけたらもっと長くゆっくりしてから帰りたい

⑤ これからのくらしについての要望

- ・若いヘルパーさんにきてほしい（かわいい人、かわいい人）
- ・もっと支援に出かけたい（デイズニードやコンサートなど）
- ・もう少し広いところに住みたい、ペックとくらしたいなと思う
- ・仕事をして休みの日にあそびに行ったりするような普通のくらしがしたい

家族アンケートから

① 作業所の支援などへの全体的な

評価（回答数 125）

とても満足 51 やや満足 38 普通 28
少し不満 8 とても不満 0

項目別では、満足度の高い順に送迎支援（体制）、職員の対応、設備・環境でした。改善を求めるものとしては工賃に対してたくさんの方が寄せられました。

② グループホームでの支援などへの

評価（回答数 31）

とても満足 12 やや満足 14 普通 3
少し不安 2 とても不安 0

項目別では、満足度の高い順に建物・環境、職員の対応、健康面への対応でした。心配の声として多い記述では、将来の生活、経済的な負担、利用日数などが多かった。

③ 自由記述欄から

(様々な要望など一部抜粋)

- ・作業所の開所時間をもっと長くしてほしい
- ・給料（工賃）がもう少し増えて食事代を払えるくらいになると負担が軽くなる
- ・老朽化のすすんでいる作業所もあるので改築の時期にきているのでは
- ・ヘルパーの人数を増やして利用できる回数を増やしてほしい
- ・親の病気などの緊急時にショートステイの対応（運泊も）をしてほしい
- ・災害時に障害のある人でも安心して避難できる場所があるといいと思う
- ・自宅での生活が長いので、子供がホームでの生活になじめるか不安
- ・親が元気なうちに本人にあった施設を見つけて、仲間と気があうかなど見守りたい
- ・母子2人でくらししているが生活も限界この先の生活環境を整えて母以外との楽しい生活などを経験させたい
- ・本人が安心して暮らせて家族も安心して託せる多様な施設がたくさんできることを望む
- ・この他にも、たくさんの方が寄せられました。今回のアンケート結果をふまえ、5カ年計画の作成をすすめていきたいと思えます。

うろじの家 開設のころ

みなと福祉会は今年10月に法人設立30周年を迎えました。記念企画の3回目として、3ヶ所目の事業所として開設したうろじの家の報告です。



「うろじ」という名前の由来

みなと福祉会と港区障害者(児)とともに育つ会の歴史の中で「うろじ」という名前が刻まれたのは、1983年「有路地の会」がはじまりです。合併、統合を経て、15年後(みなと福祉会が誕生して8年)の1998年4月、築85年という4軒長屋に3ヶ所目の無認可作業所「うろじ作業所」が開所します。そして、幾多の困難を乗り越え、「うろじの家」が誕生しました。

みなさんにゆへ、「うろじ」としてやういう意味ですか?と尋ねられます。そのゆへ、まずその名前の由来について説明をさせていただきます。

『有漏路より無漏路へ帰る一休み』

雨降ればは降れ 風吹かば吹け

と、「うろじ」にあわてなごめ、あわてなごめとやすすみとやすすみと「有名な一休さんこと一休宗純禅師が師より命名とされる際に添えられた歌があります。

「有漏路はこの世、煩惱に穢れた迷いの世界。無漏路はあの

世、煩惱のない清浄な世界、悟りの境地」という意味だそうです。「今を生きていくのには、何も考えず急いで突き進んでいくのではなく、いろんなことを考える時間を持つて、「一休み」しながらゆっくり行きなさい。雨の日もあれば風の日もあるけど、いつか雨も止むし、風もおさまるのだから…様々な障害や壁が現れるかもしれないが、慌てず、ゆっくり行けばいい」(語説あり)というところから、当時の障がいのある子どもを持つ家族へ向けられた言葉と捉え、用いたのです。

廃品回収量が名古屋市内の1番に

そんな歴史の中、私は1998年3月に港区障害者(児)を育てる会(当時名称)に就職し、うろじ作業所の開所に携わることになります。

仲間と共に口課を考え、調理実習などの楽しい取り組みや下請け作業、おかせ作業所が始めた「配食事業」にも仕事としてがんばる日々。また、地域の方々の協力を得ながらの春と秋の大バザーは、無認可作業所の大きな資金源でした。

そんな中、「仲間の給料をどうしたらふやせるか?」という命題を掲げ、力を入れて取り組んだ1つが廃品回収でした。暑い日も…寒い日も…来る日も来る日も2トトラックの荷台と軽自動車がいっぱいになるほどの回収を続けました。

その結果、名古屋市内の学区回収などを行う団体の中で年間の回収量が「1番」となり、なんと名古屋市から表彰されました!!もちろん、仲間の給料も大幅にUPすることができました。

そして、1年を過ぎていく中で仲間が1人増え、2人増え…翌年には第2うろじ作業所を開所、2001年に、いろんなものを包み込んでくれる大きな海のように、どんな障害があっても支え、受け入れていくこと「わーくす・大海」2003年、就労に近い形の「小規模作業所ばんだふる」を立て続けて開所し、気がつけば仲間が50名という大所帯になっていました。

そこで、50人の仲間とともに名古屋市役所へ「早く認可

にしてください。」と仲間たちの声を訴えに行きました。しかし、国からの認可が下りなかったため、署名活動を行い29,385筆もの署名を携え、厚生労働省へ直談判に行きました。

その結果、8年後の2006年7月に「うろじの家」を開所することができました。

当時は、見渡す限り畑が広がり、うろじの家の3階から名古屋駅が見えていました。今では、イオンや様々なお店ができた…道路が広くなったり…その頃には考えられないほどの街並みになっていきます。

新規の仲間や職員も増え、みなと福祉会の事業所の中では平均年齢の若い事業所で、みんな働くことへの意欲がみなぎる毎日です。

仕事は、ばんだふるの「焼き立てパン」、「オリジナルTシャツをつくる」とオリジナル印刷、下請け作業などバリバリこなしています。また、ミツフルファームに先駆け、畑を借りての農作物作りやアグリパークへ施設外労働として出向もしていました。

みなと福祉会は、3歳の未就学児から70歳を超えた仲間までたくさんの人たちを支えています。その人生において、自分たちも力になり、支えていければと思います。

あれから22年。無認可時代に経験させていただいたことが、今の自分の糧となり、子どもたちや仲間の支援に繋がっていると 생각합니다。

子どもたちに接していると、「今日はなぜ話をしてくれないのか?」「なぜ、笑ってくれないのか?」と思つ口があります。そんな時、子どもの顔を見ながら自分を振り返ると、疲れた顔になっていたり、自分自身が笑っていないことに気づかれます。自分が心から楽しんでると、それに呼応して子どもたちも満面の笑みを浮かべながら来てくれます。

「仲間、子どもたちの笑顔は、自分の鏡」このことを忘れず、仲間や子どもたちから学びながら、共に成長し、一緒に笑いあえる毎日にしていきたいと思つています。

(現さざなみ所長 佐藤元城)